

## 巻頭言

## アンサンブル・ヒーロー

片上 敏喜 (日本大学)

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威ふるい、様々なところに多大な影響を与えている大変な状況の中において、本誌を手にとって頂きましてありがとうございます。

本号の『くらしと協同』は、筆者も活動に参加させて頂いているくらしと協同の研究所に関わる研究者の会である「コーポラティブ・ラボ」(愛称: コーぼらぼ)のメンバーで企画し、執筆させて頂きました。

コーぼらぼは、2008年にくらしと協同の研究所において、当時、福井県立大学におられた北川太一先生(現在は摂南大学に在籍)を座長として発足した「食の懇話会」で活動を行い、研究を通じて親交を深めたメンバーが基盤となって、2017年に活動をスタートしました。コーぼらぼでは、「協同組合的」な考えに関心を持っている研究者が集う場として、情報交換・発信の機会を積み重ねていくことで、研究の継承・深化、ネットワーク・アクセスづくりや新たな研究成果の発信等を行っていくことを目的としています。そのような中で、コーぼらぼでは2019年から年2回、『くらしと協同』の企画を担当させて頂いており、これまでに第29号(2019夏号)と第31号(2019年冬号)を企画させて頂きました。

いずれの号におきましても、現場への取材を通じての執筆や原稿依頼等を行いながら作らせて頂き、本来であれば本号もこれまでと同じ形で行い、例年通りであれば、2020年6月中に発行し、皆様にお届けできるように進めていく予定でした。しかしながら、新型コロナウイルス感染症により、

取材のための移動や人との接触そのものを避けることが余儀なくされ、企画を進めていくにあたって様々な制限がかかり、これまでと同じ形での発行が困難な状況に直面しておりました。そこで厳しい状況が続く中ではありますが、そうした中でも、今、できることで皆様に読んで頂ける企画を模索する中で、コーぼらぼのメンバーがこれまでに訪れて関心を持った地域や活動等を「くらしと協同をたずねて」として特集するとともに、コーぼらぼメンバーが現在取り組んでいる研究の紹介やおすすめの書籍紹介を交えて、本号を編ませて頂きました。

おそらく、本誌を手にとって読んで頂ける方々の多くは、協同組合関係者の方や協同組合に関心を持たれている方が多いかと思えます。私見ではありますが、協同組合に関わり、何かしらの形で携わっておられる方は、社会の「縁の下の力持ち」であると思うことが多くあります。最近、縁の下の力持ちという言葉自体を聞くことが少ないようにも感じますが、それは未然に問題や事故が起こるのを防ぐことより、起こってから解決することに価値があるという考えが広がっているからではないかと思うからです。けれども、「起こる前」にその予兆に気付き、事前に手を打ち、対処してくれる方々が少なくなると、社会のあらゆるところで問題が起こり続けていきます。

未曾有の状況下で、厳しい日が続きますが、本号が折にふれて心に感じる縁の下の力持ちの皆様への一服の清涼剤になれば幸いです。